

一日時 平成二十八年九月二十八日（水曜日） 第五時限

二 学級 第二学年六組（松本）、十組（有馬）

三 単元・教材 自分の意見を発表しよう

四 単元目標

- (1) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現しようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。（話す能力・聞く能力）（1）エ）
- (3) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。（知識・理解）

五 取り上げる言語活動と教材

(1) 言語活動

与えられた課題について、資料を活用しながら自分の考えをプレゼンテーションにより表現すること。

(2) 教材 選挙関連資料等

六 単元の具体的な評価規準

- (1) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現しようとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現している。（話す能力・聞く能力）（1）エ）
- (3) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てている。（知識・理解）

七 指導観

- (1) 単元観
これまでも自分の意見を論理的かつ論拠に基づいて伝える方策について学習してきたが、今回は客観的な資料である表やグラフを基にして、与えられた課題を解決するための方策をプレゼンテーションする活動を行う。課題解決のために資料を分析・考察し、プレゼンテーションによって自分の考えを表現するので、説得力のある発表のために、内容・音声表現・ジェスチャーなど複数の観点から検討することが必要である。今単元を通じ、論理的に思考・表現することによって説得力が高まることを体験させ、またグループ学習を行うことで、協働的な学びによる思考の深まりなどを実感させたい。
- (2) 学習者観
学習態度はおおむね真面目であり、落ち着いて授業に臨むことができる。ただ、受け身の姿勢が強いいため、物事を主体的に捉えたり、積極的に行動したりすることが苦手な生徒が多い。生徒が主体的に学習活動に取り組めるよう、活動内容や雰囲気づくりに工夫が必要である。
- (3) 教材観
今単元では、課題を解決するための資料としてグラフや表などの客観的データを使用し、課題の設定から解決方法までを検討するので、様々な角度から主張を組み立てることが可能となる。そのため、課題に取り組む積極的な姿勢を育むことができ、この姿勢が、ひいては主体的に学習に取り組む態度へとつながっていくことが期待される。

八 単元の指導計画（配当時間6時間）

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価規準、 ◆評価方法、*努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第一次 3時間	・選挙に関する資料を分析し、「若者の投票率を上げるためにはどのようなすればよいのか」を考える。課題に対してはグループで協力して取り組む。	・まずは個人で考え、次にグループで取り組む。 ・複数の資料を統合して投票率が低い要因を考えるよう助言する。 ・要因に対する解決策が適切かどうかを意識させる。 ・説得力のある主張をするために、主張と根拠の結びつき、反論の想定などを検討させる。 ・グループごとに相互評価させ、よりよい思考へとつなげる。	◇(1)(2) ◆記述の確認（ワークシート） *グループ内の他者の意見を参考にさせる。
第二次 1時間	・最終発表（プレゼンテーション）の準備をする。	・相互評価を基にして、さらに説得力のある意見に改善させる。 ・最終プレゼンテーションに向けて、内容面だけでなく表現面の検討もする。	◇(1)(2) ◆記述の確認（ワークシート） *他グループからの意見を参考にさせる。
第三次 2時間	・最終発表（プレゼンテーション）をする。	・発表者以外は発表を評価する。	◇(2)(3) ◆記述の確認（相互評価表） ◆行動の分析（プレゼンテーション）

九 本時の目標

目的に応じて、様々な情報を分析・整理して、自分の考えを表現する。

十 本時の評価規準

目的に応じて、様々な情報を分析・整理して、自分の考えを表現している。

十一 本時（全6時間中の2時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・本時の内容を知り、グループワークの準備をする。	①本日行う活動の内容と進め方を理解する。	①・本時の目標を示す。
展開 (42分)	・グループワークを行う。 ・中間報告を行う。	②グループに分かれて、日本の若者の投票率が低い要因を考える。複数の資料の読み取りを通して思考を深める。 ③2グループ一組にして、本日考えたことを報告し、問題点をし合う。	②・読み取りと解釈を明確に区別すること、要因をあげるために複数の資料を統合して用いると説得力が増すことに気づかせる。 ③・報告を受けるグループは論理的整合性があるか、複数の資料から一つの要因を導き出しているか、などに注意する。
終結 (3分)	・本時の内容を振り返るとともに、次時の予告をする。	④本時の学習を通じ、新しく理解できたこと、気づいたことを確認する。	④・次回は今回考えた要因に対する解決策を検討することを伝える。

十二 御高評